

(1)「言語活動の充実」が提言された背景



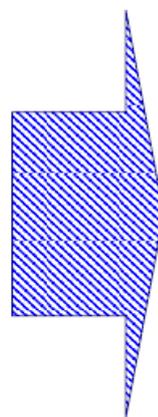
言語活動の充実が、今回の学習指導要領改訂で「各教科を貫く重要な改善の視点」と位置付けられた背景は「言語活動の充実に関する指導事例集【高等学校版】（平成24年6月、文部科学省）」で以下のようにまとめられています。

「言語活動の充実に関する指導事例集【高等学校版】」のポイント

言語活動の充実に関する基本的な考え方（1）

言語活動の充実が求められている背景

- ◆知識基盤社会の到来、グローバル化の進展
＝変化に対応していく能力の育成
 - ・幅広い知識と柔軟な思考力に基づく判断
 - ・切磋琢磨しつつ異なる文化や歴史に立脚する人々と共存していくこと など
- ◆国内外の学力調査の結果
⇒思考力・判断力・表現力などに課題
 - ・読解力に課題（PISA調査）
 - ・記述式問題に課題（全国学力・学習状況調査等）
- ◆教育基本法改正などにより教育の理念が明確になるとともに、学校教育法改正により学力の重要な要素が規定
 - 学校教育法（昭和22法律第26条）第30条（略）
 - ② 前項の場合においては、生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。
 - ※高等学校については、第62条に読み替えて準用



新しい学習指導要領で「言語活動の充実」を重視

文部科学省「言語活動の充実に関する指導事例のポイント」より引用

出典 文部科学省：言語活動の充実に関する指導事例集【高等学校版】のポイント

なお、提言の背景の一つである、「国内外の各種調査の結果」では、児童生徒の読解力や表現力の低下に関して、例えば以下のような課題が見られました。

- ① 教育課程実施状況調査：平成15年度結果を平成13年度と比較した時、国語の記述式問題における正答率が低下した。
- ② OECDの「生徒の学習到達度調査」（PISA調査）：平成15年実施結果を前回と比較すると、読解力の習熟度レベル別の生徒の割合において、成績中位層が減り低位層が増加するとともに、成績分布の分散が拡大し低下傾向が見られた。特に読解力や記述式問題に課題がある。



(2)「言語活動の充実」とは



単元で生徒に付けたい力を明確にした後、それにふさわしい言語活動を取り入れた学習活動を効果的に行うことが「言語活動の充実」につながります。よって、ただ単に言語活動を授業に取り入れるだけでは「言語活動の充実」とはいえません。

言語活動を充実させるには、次のステップで授業を構想していくとよいでしょう。

- ① 生徒に付けたい力を明確にする（具体的な生徒の姿で評価規準を作成する）
- ② 付けたい力にふさわしい言語活動を選定する（P16, 17を参照）
- ③ 生徒の課題解決の過程に言語活動を取り入れた学習活動を位置付ける
- ④ 思考や判断を促す発問や指示を準備する

また、思考・判断させる時間をきちんと確保するとともに、他者と協議するなどの活動を取り入れ適切に支援していくことが大切です。詳しくはP20～24に記載しております。

(3) 思考力・判断力・表現力等高めるためには



思考力・判断力・表現力等をはぐくみ、課題解決能力を身に付けていくには、「論理的に思考する」ことが大切になります。「論理的に思考する」には、「判断とその根拠」「結果とその原因」を筋道立てて考えることが必要なのです。

PISA調査で明らかになった読解力や表現力の低下とは、資料等を読み取る力やそれを基に自分の考えを論理的に説明する力が不足していることを表しています。これは、目の前の状況から必要な情報を読み取り、その情報を基に課題を解決していく手立てを見つけていく思考力や判断力、その課題解決の過程や結果を表現する力を身に付けていないことが原因です。

「なんとなく～だと思う」「～のような気がする」等の表現は、根拠を示していないので、思考し判断した上での表現とは言えません。「これは～だと考える。なぜなら〇〇が・・・だからである。」のように、「～だと考える」という結論や結果について、「〇〇が・・・だから」という明確な理由や根拠を示しながら、論理的に説明できれば思考力・判断力・表現力等がはぐくまれているのです。



(4) 思考・判断させるための方法例



論理的に思考し表現することは思いを述べることではありません。例えば、以下のような方法で思考・判断するよう指導しながら、記録、要約、説明、論述等の、P16,17で後述する具体的な言語活動を授業の中に意図的に取り入れていくことによって、言語活動が充実した授業になっていくと考えられます。

類推

類似の点を元にして、他の物事を推し測る

比較

二つ以上のものを比べあわせて、その異同について考える

対比

2つのものを比べて、その相違や特性をはっきりさせる

関係化

2つ以上のものを、何らかのつながりをもたせて結びつける



分類

事物を一定の基準に従って種類別に分ける

照合

照らし合わせて確かめること

推理

2既知の事実や経験に基づいて考えをめぐらし、まだ知られていない事柄を推し測る

分析

複雑な事柄を細かな要素に分けて、その性質や構造等を明らかにすること